

2. ホタテ貝等二枚貝類対策試験調査

2. 1 赤潮・貝毒監視事業

担当者 調査研究部 平野和夫・清河 進

(1) 目的

全道沿岸の有毒プランクトンの出現状況から貝毒力の上昇期および下降期を海域別に推察し、関係機関に速報して、貝類の計画的出荷に役立てる。

(2) 経過の概要

網走水試の担当海域は宗谷南部（頓別沖）海域、網走北部（紋別沖）海域、網走南部（網走沖）および能取湖海域の 4 海域である。

宗谷南部（頓別沖）海域については 4 月の 1 回のみ、網走北部（紋別沖）海域については 3、4 月の 2 回のみ、表層から底層までの 4 層（頓別：0・10・20・30m、紋別：0・15・25・40m）から各 1ℓ採水し貝毒プランクトンの出現数を計測した。

また、網走南部（網走沖）海域については 4～8 月の期間、月 1 回の頻度で 0m、10m、20m および 30m の 4 層から、また能取湖海域については 4～7 月には月 2 回、8～10 月には月 1 回の頻度で 0m、10m の 2 層から、各 1ℓ採水し貝毒プランクトンの出現数を計測した。

(3) 得られた結果

結果は、「貝毒プランクトン速報」として関係機関に電子メールを 3～11 月の間に計 18 回配信した。

また、全道の結果を中央水試がとりまとめ「赤潮・特殊プランクトン予察調査報告書」としてマリネット北海道ホームページ上で公表することになっている。